

東久留米市立西中学校 第3学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価 (◎、○、●)
国語	<p>総じて、与えられた課題に対しては意欲的に学習に取り組む。自ら疑問をもって学習に取り組むことの重要性を理解している生徒が増えつつある。</p> <p>漢字や文法などの基礎的な知識が不足している生徒もいる。</p>	<p>理解のポイントとなる場面において、教師が問題を示すのではなく、生徒にポイントは何か、問題となる事柄は何かを考えさせる。</p> <p>二期は毎週小テストを行う。</p>	<p>○授業のポイントをどう捉えたか、振り返りシートに記入させ、確認する。その際、学習したことを基にして新たな疑問を見出すことを求める。以上のことを75%の生徒ができるようにする。</p> <p>●80%の生徒がAレベルを取れるようにする。</p>
社会	<p>定期考査の結果を見ると、基本的な知識が身に付いていない生徒が一定数いる。発言する生徒はごく一部に限られている。</p> <p>既習の学習事項との関連に気付き、説明することを苦手としている。思考・判断・表現について、取組む以前にあきらめてしまう生徒がいる。</p>	<p>基礎、基本的な知識技能の定着を図るために、授業の中でプリントやワークを活用させる。その際、わからない問題は、自分で調べさせる。</p> <p>既習の学習事項との関連性に気付かせる発問を適宜行う。また、グループ学習を活用し、多様な意見に触れさせ、考えたこと等について文章化する機会を増やす。記述させる回数を増やし慣れさせる。</p>	<p>○確認小テスト(形成的評価)を節ごとに行う。知識技能の達成率7割を目指す。</p> <p>●記述させた内容に対して形成的評価を行い、2/3以上の生徒が知識を活用して説明できるようにする(=B評価以上)。</p>
数学	<p>授業内で出来るようになった問題の類題を家庭で再度解こうとする意欲が足りない。</p> <p>事柄が成り立つ理由や事実を説明する力である思考力・判断力・表現力を付けさせたい。</p>	<p>授業内で形成的評価をする機会を増やすとともに、知識・技能を問う問題への取り組む機会を増やす。</p> <p>・授業内で成功体験を多く与え、粘り強く挑戦し続け、自己調整しようとする態度を育てる。</p>	<p>○定期考査で知識・技能を測る内容を出題し、80%以上の生徒が正答するように授業をしていく。</p> <p>○定期考査で思考・判断・表現を見取る内容を出題し、50%以上の生徒が正答するように授業をしていく。</p>
理科	<p>理科の学習に対する苦手意識のある生徒が多い。自然現象について、暗記すればよいという考えがある。</p> <p>実験結果から、自然現象について順序立てて説明することが苦手である。</p>	<p>話し合い(教え合い)活動を充実させ、今まで理科が苦手な生徒の学力を引き上げる。</p> <p>既習事項を活用し、理科的側面での見方・考え方ができるように、説明・発問を工夫する。</p>	<p>○定期考査において説明問題の得点率50%以上の生徒を6割以上にする。</p> <p>○実験結果のまとめで要点を捉えさせ、定期考査で説明できるようにする。</p>
音楽	<p>全体的に既習事項を活用し意欲的に学習に取り組んでいる生徒が多いが、発言については自信がもてず消極的である。</p> <p>全体に向けての発言だけでなく、小グループでの発表などを取り入れ、互いの意見や作品を参考に学びを深める場面を意識してつくる。</p>	<p>ワークシートのまとめ方を簡潔に示すとともにA評価の生徒の記述内容などを提示し、何ができるようになったか学習状況を振り返られるようにする。</p>	<p>◎形成的評価の場面で個別にアドバイスをし、総括的評価を行う際、思考・判断・表現の項目がB評価以上の生徒が8割以上になるようにする。</p>
美術	<p>全体的に話をよく聴き集中しよく取り組んでいる。一部の生徒が授業で学んだ知識を生かせないまま取り組んでいる。</p>	<p>生かしたい知識を簡単な言葉などでまとめられるようにワークシートを工夫する。</p>	<p>◎振り返りシートやワークシートから理解が深まったかを確認し、つまずきが見られる生徒には個別にアドバイスをする。</p>
保健体育	<p>授業への関心が高く、自主的に取り組む姿勢や課題解決のための、思考力が高まっている。考えたことを仲間に分かりやすく伝えることや文章で説明する力を更に伸ばしていきたい。</p>	<p>正しい動きを理解する知識を習得させるために、ペア学習やグループ学習を取り入れる事によって相互評価の場面を設定する。また、映像を撮影し、客観的に自分自身を分析する力を身に付けるなど、タブレットを活用した授業も行っていく。</p>	<p>◎振り返りカードを活用して、運動の目的や課題解決等に向けて書けているか評価し、教師が個別に指導(コメント記入)を行う。授業内でのアドバイスを具体的に行う。総括的評価でB評価以上の生徒が7割を超えられるようにする。</p>

技術	タブレットなどの情報機器の関心は高いが、情報の見方・考え方や技能を身に付けている生徒は少ない。	日常で使われているプログラムについて考える機会を増やす。 ワークシートの工夫や、反復練習を行うことで、技能の定着を目指す。	○振り返りでどのように理解できているのか確認。7割以上の生徒がキーワードを含めて、文章で説明できる。 ◎小テストなどで到達度を確認する。
家庭	バリアフリー、ユニバーサルデザインへの理解と関心が高まっている。安全な住まい方の工夫として自分の生活に生かす力を高める。	住まいの学びを生かし、班での話し合い・発表による共有を参考に自分の家を振り返り、安心・安全な住まい方の工夫を考える。	◎課題やワークシートでの記述内容。 ◎期末考査の記述。 ◎内容確認ミニテスト（形成的評価として）
外国語	表現の領域の知識・技能における正確性が十分でない。 話すこと[発表]と書くことの領域における正確性が身に付いていない。	言語活動のあとには、必ず言語面からの指導を行い、正確性を徐々に向上させていく。 正確性が身に付くには時間がかかることを踏まえ、帯活動などで繰り返し言語活動に取り組みせる。	○パフォーマンステストの知識・技能の評価でBをとる生徒を7割以上にする。 ○目的、場面、状況を適切に設定した言語活動で机間指導を通して、生徒の発話内容の正確さを確認する。コミュニケーションに支障のない程度でのミスで収まる生徒が7割以上になることを目指す。
特別 道徳 教科	話し合い活動では他者の意見を傾聴し、見方・考え方を広げようとする生徒が多い。 より多面的・多角的な見方・考え方ができる生徒を増やすために、適切な発問を学年会で検討する。	内容項目にそって、更に多面的・多角的な見方考え方を深められるよう、授業内の発問を工夫する。 教科書の活用に関して、より考え方が深まるように役割取得をさせる。また、導入を短くし、話し合い活動の時間を多く取れるようにする。	○ワークシートをファイルにストックし、教師と生徒自身が自らの成長を把握できるようにする。 ◎学期末にワークシートを引用しながら個人内評価を行うとともに、成長が見られた点を励まし、更なる成長につなげる。
学習の 総合的 な 時間	修学旅行の事前学習や進路学習に意欲をもって取り組んでいる。 調べ学習において、タブレット端末を活用して情報収集を自らすすんで行っている生徒も見られる。	班での活動を重視し、班員全員で行き先などについて決定させる。進路学習は定期的に学級で実施し、見通しをもった進路選択に繋げていく。 行き先の決定についてはタブレット端末を活用してプレゼンテーションさせるなどして、ICT機器を積極的に活用する。	○進路希望調査や面談を活用して見通しを持った進路指導を行う。 ○修学旅行が終わった後で、学んだことについて生徒が振り返りを行い、調べ学習の方法や発表の良かった点、改善すべき点を確認する。